

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	当院における経尿道的碎石術（TUL）の臨床的検討 —Pre-stentの手術への影響および術後尿路感染のリスク因子について—
研究期間	当院病院長許可日 ～ 2031年12月31日
対象患者	2016年12月1日～2031年3月31日の間に経尿道的碎石術（TUL）を受けた患者さん。
研究機関の名称	研究代表機関：島根県立中央病院
当院研究責任者	泌尿器科 吉野干城
意義・目的	腎や尿管の結石の治療法として、経尿道的碎石術（尿の通り道に内視鏡を入れ、結石を見ながら砕く）があります。①尿路感染（おしっこの感染症）の治療目的に事前に尿管ステント（尿管に入れる細い管）を留置することがありますが、ステントは上記手術に対して様々な影響が報告されています。事前の尿管ステント留置による手術への影響を明らかにして、今後の安全な手術へつなげていきたいと考えています。②また、経尿道的碎石術の合併症として術後尿路感染があり、時に重篤化します。術後尿路感染を生じやすい特徴を調査し、安全な手術が行えるようにしたいと考えています。
研究内容	①尿管ステントを留置した方、留置しなかった方のそれぞれの特徴、年齢、性別、持病の有無、結石の長さ・体積、手術時間、入院日数などを調べ、差があるか否かを評価します。 ②術後の尿路感染が起こった方、起こらなかった方のそれぞれの特徴、年齢、性別、持病の有無、結石の長さ・体積、手術時間、入院日数などを調べ、差があるか否かを評価します。さらに、術後尿路感染に最も関与した特徴を洗い出します。
利用・提供する試料・情報の項目	研究内容に記載した患者さんの特徴をカルテから調べます。
試料・情報の他機関への提供有無	<input type="checkbox"/> あり 提供方法： 海外の機関への提供 <input type="checkbox"/> あり・ <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> なし
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。
結果の公表	学術集会や論文で公表予定です。
備考	

***** お問い合わせ先 *****
島根県立中央病院

研究責任者：泌尿器科 吉野干城
電話：0853-22-5111（代表）

事務担当：臨床研究・治験管理室
電話：0853-30-6590（直通）
